

報告事項セ

令和5年度 第1回 鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼鳥取県社会教育委員会議の
概要について

令和5年度 第1回 鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼鳥取県社会教育委員会議の概要につい
て、別紙のとおり報告します。

令和5年10月18日

鳥取県教育委員会教育長 足 羽 英 樹

令和5年度第1回鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼鳥取県社会教育委員会の概要について

令和5年10月18日
社会教育課

- 1 日 時 令和5年8月29日（火）午後1時から午後2時50分まで
- 2 場 所 鳥取県立大山青年の家 2階 大研修室
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 会議概要

議事1 副会長の指名

- 令和5年3月31日に山根一記委員が辞職されたことにより不在となっていた副会長について、鳥取県教育審議会条例第10条第5項に基づき、清水秀満委員（鳥取市美保南地区公民館館長）が会長により副会長に指名された。

議事2 鳥取県子どもの読書活動推進ビジョン第5次計画策定に向けたアンケート調査の項目について

- 第5次計画策定にかかわる基礎資料とするため、本県における子どもたちの読書活動の実態を把握することを目的としたアンケート項目（案）に対する意見を伺い、回答者が負担に感じない適当なボリューム、施策に生かせる質問になるよう、事務局で表現や項目を整理・検討することとなった。

(1) 事務局の説明

県教育委員会では、「鳥取県子どもの読書活動推進ビジョン」を策定し、子どもの読書活動推進に関する施策を行っている。令和元年に策定した現行（第4次）計画は、その期間を概ね5年間としており、来年度は次期計画（第5次）の策定を予定している。第5次計画策定にあたっての基礎資料とするため実施する「子どもの読書活動に関するアンケート調査（案）」の内容を説明した。

- ・回答者の負担軽減のため、概ね10分程度で回答できる内容とする。
- ・経年変化をみていく質問は残し、新たな課題等に対応する質問の追加、不要となった質問は削除する。
- ・対象となる児童、生徒、保護者への調査票配布等を依頼する学校及び保育所・幼稚園の負担が軽くなるよう、必要最低限の調査票配布数とする。また、学校単位の調査も行う。
- ・回答方法として電子アンケートでの回答も検討する。
- ・調査対象となった学校には読書に関する校内の取組等について質問し、児童・生徒等の回答と合わせて分析する。また、読書バリアフリーの施策を推進するため、特別支援学校を対象として調査を行う。

(2) 主な意見

- アンケートの質問は概ねよいが、属性（性別）を把握するための設問は読書とは関係ないため不要ではないか。現状を把握し、どうしたら読書をするか、どのような時だったら読むのか、余暇の部分が重要になってくる。体験活動の一つである読書は大切なことであり、分科会でそういった意識をもっていきたい。
- 設問の「どこにある本をよく読むか」の選択肢に「その他」があった方がよい。学級文庫や知り合いからの勧めもあると思う。
- 図書館から距離がある子どもと、近い子どもの図書館利用の差を知りたい。
- 保護者の設問の「ブックスタート、ブックセカンドで配られた絵本の活用」の選択肢に「使っていない」理由を聞いたらどうか。
- SNSやゲームの時間に関する質問はどうか。
- 読み聞かせの設問の中の電子書籍には、静止画に音声が付されたものは含まれるのか。また、中・高校生は、アマゾンの聞か読書（オーディブル）等オーディオブックを使っているのではないか。
- YouTubeで配信されている読み聞かせの動画と実際の読み聞かせは別物である。読み聞かせには、好きな人に読んでもらうことによる効果もある。
- 小学生には設問も選択肢も多すぎる。もっと少なくしたほうがよい。事務局説明で10分で回答できる量とあったが、（案）の内容の場合では難しい。

- 今はタブレットですぐに情報を得ることができる。図書館に行って調べてみることも大事なことで、もどかしさを感じる。
- 本の良さ、本から学ぶことを子どもたちにもっとわかってほしい。
- 現場で低学年の子どもをみていると、幼児期に読み聞かせをしてもらった子どもは、絵の描き方や国語の力に違いがあるので低学年くらいまでの読み聞かせやお話会の大事さを感じている。
- どういった対策が必要かわかるようなアンケートにしてほしい。
- 読書をめぐる状況をアンケートですべて網羅するのは難しい。図書館の役割も変わってきた。タブレットでは「冊」の概念がない。
- 1か月に1冊も読まなければ不読率とのことだが、膨大なページがある本は1か月でも読めないこともある。1ページでも読んだら1冊なのか、全部読んで1冊なのか。
- 設問の「この1か月で何冊本を読んだか」の1か月はいつの時期か。夏休みなら読むが、試験前は読書する時間がとれないなど、時期的なものも左右されるのではないか。
- 自由記述が加わるという。最後のところでもよいし、各質問ごとでもよい。

意見交換 大山町大山公民館及び県立大山青年の家の視察について

(大山町大山公民館)

- コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を全県的に取り組んでいると思っているが、大山公民館長との意見交換で、現実問題として校長によって温度差があることがわかった。
- 公民館の活動で感じるのは、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動について、公民館は「協働活動」、学校は「学校への支援」と思っている。
- コミュニティ・スクールと地域学校協働活動について、活動内容によって上手く機能している活動と、地域と学校と保護者に温度差がある活動とがある。
- 公民館内に設置されている図書館が、午後10時まで開館していることは利用者にとってとても良いと思う。

(県立大山青年の家)

- 県立大山青年の家を大学生が知らなかったり、使ってよいという感覚がない。誰でも使ってよいということの周知と、利用しやすい工夫をしたほうがよい。
- 県立大山青年の家は学校はよく利用するが、高齢者や一般、成人の利用が少ないので、そういう人を迎え入れてはどうか。高齢者の利用には、看護師などの健康面からのサポートもあるとよい。
- 県立大山青年の家の施設を建て替えるなど、一新すると違うのではないか。
- 県立大山青年の家は電波が十分に届かない。デジタルデトックスで売っていくのもひとつ。
- 大学生は自家用車を持っていない者も多いので、県立大山青年の家までのアクセスを利用案内に記載し周知するなどどうか、無料送迎もあったらよい。

その他(事務局からの連絡事項)

令和5年12月15日(金)に南部町や文部科学省等が主催する「全国コミュニティ・スクール研究大会 by 鳥取県南部町」が米子コンベンションセンターを主会場に開催される。事例発表やパネルディスカッションが企画されており、「キナルなんぶ」では高校生サークルによる実践発表なども計画されている。たくさんの方に全国や県内の取組を見ていただきたい。委員の皆様にも改めて御案内する。

**令和5年度第1回鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼県社会教育委員会議
出席者名簿**

氏名	所属・職名等	備考
池田 緑	鳥取県子ども読書アドバイザー	
小椋 博幸	倉吉市教育委員会教育長	欠席
川口 有美子	公立鳥取環境大学環境学部准教授	
小林 宏美	若桜町立わかさこども園長	欠席
小林 まゆみ	鳥取県連合婦人会	欠席
清水 秀満	鳥取市美保南公民館長	
清水 まさ志	鳥取大学地域価値創造研究教育機構准教授	
高尾 裕子	鳥取県PTA協議会会長	
平尾 岳文	新日本海新聞社総務局総務部長	欠席
福田 京子	日本ボーイスカウト鳥取連盟副理事長	欠席
福田 範子	日南町教育委員会事務局教育課総括室長兼社会教育室長	
山田 美奈	智頭町地域おこし協力隊	
淀瀬 由美	倉吉市立上小鴨小学校校長	
米田 遼史	公益社団法人鳥取県老人クラブ連合会理事	